

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400066		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム月の里		
所在地	千葉県若葉区中野町727-1		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態を常に把握し早めの対応、受診を心がけています。 ・意見を全職員で検討しサービスの向上に取り組んでいます。 ・年間の行事は出来るだけ取り入れています。他にドライブ、買い物、外食など実施しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>幹線道路を少し入った閑静な場所にあるホームは、「安心して暮らす・のんびり暮らす」をモットーに、入居者が自然体で暮らせるよう環境の整備に努めている。特に健康状態に留意し、小さな気付きも大切に早めの対応と受診を心掛けている。近隣との関係も良好であり、日々の付き合いや運営推進会議などを通して理解と協力を得ている。今期、管理者が交代したが、新たな課題も見つけ職員全体が改善の意欲を持ち、まとまりを見せている。設立から4年が経過し、入居者は落ち着いた家庭的な生活環境の中で、安心と穏やかな暮らしが出来ている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設長を中心に職員は常に運営上の方針や目標など話し合い理念を一人ひとりが頭に入るよう目に付くところに掲示して全体会議の時に唱和しています。	自立した生活が困難になった入居者の「安心と尊厳のある生活」を理念として掲げている。職員はこれを基に「安心して暮らす・のんびり暮らす」をモットーとした生活環境作りに努めている。理念は会議の冒頭で必ず唱和し、意識づけされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方、お寺の総代にお誘いを頂き夏祭りに参加。カラオケを歌わせていただいたりしています。また希望者を若葉図書館にお連れしています。	自治会に加入し、祭りなどの行事に参加している。花見などで近隣の公園を使う時は、承諾を得て、お礼の挨拶を欠かさずして。地域から新鮮な野菜が届くこともある。運営推進会議には、毎回地域代表の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じてサービスの内容や行政の報告などを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族、地域包括センターに参加していただき意見交換、質問に回答などしている。2ヶ月に1度開催している。	活動報告・行事予定・地域との連携や協力要請を議題とし2ヶ月毎に開催している。最近、災害時の水の確保について話し合った結果、自治会代表が敷地内に所有する井戸を非常時には地域全体で使わせてもらえることになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が多いため事務手続きなど市のグループホーム連絡会に出向きアドバイスや情報提供を受けています。市の福祉事務所に相談を持ちかけ担当者とも密に連絡している。	市担当課には必要があればアドバイスももらっている。運営推進会議には、地域包括支援センターの参加を得て、ホームの現況も理解してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の支援の中で常に意識している。また、言葉かけや対応においても拘束につながらないよう全職員で気をつけている。職員が研修に参加し、その後社内研修を実施している。	管理者は、職員に対し「介護技術により身体拘束を回避出来る」ことを繰り返し説明し、身体拘束をしないケアを徹底するよう努めている。玄関と他の出入り口の施錠も行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束と同じく職員が研修に参加し皆に伝え防止は合言葉となっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉権利擁護センターと連携し必要な方に活用していただいている。職員に後見人制度について説明。虐待防止も権利擁護活動の一つだと伝えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明に充分時間をかけて利用者さん、家族の不安や疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置。家族や利用者との人間関係を大切にしている。話しやすい雰囲気を作り随時要望を聞いている。	日々の暮らしの中で意向の聞き取りをしている。運営推進会議には家族の出席が毎回みられるものの、意見や意向の聞き取りが十分でないようにみうけられる。今後は関係者全体で議事録を共有することでその後の運営に繋げていくとよいと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を行い意見の交換を行なっている。運営に関する職員の意見を管理者を交えて話し合う機会を設けています。	月1度開催している全体会議で自由に意見交換している。バイタルの見直し・入浴時の安全性・食事の開始時間に関する討議など多岐にわたっている。職員間のコミュニケーションも良好で日頃から意見交換が行なわれており、管理者は反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が常に職員の勤務状況を把握し、給与水準を見直していただけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に参加するよう職員には促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者および職員で地域交流会や勉強会に参加している。資料を基に社内研修を行う全員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに慣れていく段階で不安を取り除くため極力声かけしている。言葉や要望に傾聴し安心した生活が築けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聴きどのようなことを求めているか理解するよう努めている。安心して入居していただけるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族からの話を聴き専門家としての判断をし、何が利用者のためになるかを良く考えて援助するようにしています。希望に沿えるよう健康面や家族の要望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬い、利用者の方が毎日楽しく過ごせる支援を提供。喜怒哀楽をともにし支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を理解し、本人と家族の絆を築けるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも訪ねてきてくれる。友人から連絡があれば必ず伝えて面会の機会が出来るよう配慮しています。地元の祭りなど参加。	家族・職場の友人・地域に暮らす人・他の施設のケアマネジャーなどが来訪している。面会に関する電話での取り次ぎや調整、携帯電話を使用している入居者への協力など、馴染みの関係がとぎれないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの方々が孤立せず助け合って交流しあえるよう支援しています。リビングでカラオケなど皆さんで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への移動や入院されても面会に行き家族の相談助言に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士安心して話ができる雰囲気作りと意向を聞き困難な場合であっても生活歴などを考慮し出来るだけ希望に沿うよう努めています。入居時に家族の方から思いを聞き取っています。	職員の方から入居者に声掛けを行い、話しやすい雰囲気作りをしている。また、精神的な状況をよく観察し、変化を感じた時は個別にゆっくり聞くようにしている。思いを出しにくい人には質問形式の声掛けを行い、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から話を聴くだけでなく家族やこれまでのサービス提供者などからも情報収集をすよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や心身の状況を観察し、小さな変化にも気づけるよう心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員が話し合い、家族の面会時に説明し適切な対応が出来るよう計画を立てています。	訪問や電話で聞いた家族の意見と、申し送りで確認している内容をもとにカンファレンスを行い、その意見を反映したケアプランを作成している。カンファレンスに参加できなかった職員にも後日確認を行い、全職員の意見を反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を事細かに個別に記録するとともに毎日情報交換のための話し合いを行っています。必要があれば計画の見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉や介護、医療制度について学んでいます。介護の方法や相談にも応じる旨を家族に伝えるよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ警察や消防署と連携をとっている。民生委員やボランティアなどと協力を得ながら支援している。若葉区内の図書館を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、異常時の受診に応じられるような対応を整えています。家族などの希望を大切に適切な医療受診が出来るよう支援しています。	協力医療機関の医師(精神科医・内科・歯科)による訪問診療が2週間に一度行われている。体調に変化が見られたときは早めに受診するようにしており、通院は職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に心身の状況や対応について医師や看護師より情報提供を受け指導を受けている。インターネットからの情報も参考に学習しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会を頻回に行い、安心して療養できるよう心がけています。病院関係者と情報共有化できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの情報を基になるべく早い時期からご家族、行政と相談し合い方向性を話し合っている。	契約時にホームで出来る事は家族に説明している。重度化した場合は、その都度話し合いを行いながら対応している。看取りに関しては医師と連絡を取り合いながらホームでぎりぎりまで支援を行い、入院してもらうという体制にしている。	重度化と終末期の方針については、早い段階から関係者の間で話し合いを持ち、方針を共有しておくことが必要である。指針を明文化して事業所の対応方針を説明することが必要かと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は施設長に連絡すると共に緊急時の対応マニュアルに従って対応。定期的に勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしたり、地域の協力が得られるように普段からの交流を心がけています。日頃から掲示されている手順書を全員で確認している。	消防署の立ち合いを含めた年2回の避難訓練を、地域の人も参加して実施した。2回の訓練で全職員が参加するようにしている。	災害別の具体的な避難対策やマニュアルの整備、訓練を繰り返し行うことなど更なる対策が期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時、着替え時には他の入居者の目に触れないようドアを閉めて対応している。自尊心を傷つけないよう本人の気持ちに配慮した声かけ介護を行なっている。	入居者の呼び方は、尊厳を重んじてさん付けで呼ぶように職員に周知している。排泄時などはプライバシーを損ねないように、静かに誘導して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者さんに話しかけたり、日々の言葉などから理解すべく努めている。本人のもてる能力を活かして自己決定を図っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活スケジュールは決まっていますが無理強いせず一人一人のペースを大切に希望に沿って支援しています。外出や買い物の同行希望に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたら着替えていただき常に清潔な衣類を着ていただいている。行事や外出時には本人の意見を聞くようにしています。ひげは毎日剃り整髪は定期的に職員が切っています。女性の希望者は化粧やマニキュアを楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が準備しています。片付けが出来る人には食器洗いやテーブルふき、配膳、下膳をしていただいています。行事の時には散らし寿司や利用者の好みを聞いて献立に反映しています。	食材は法人から届けられている。献立は、入居者の希望を取り入れ職員が作成している。食事は暖かいものを出すこと、バランスを考えた献立にすることに気を付けている。季節のメニューや月1回の外食は入居者の楽しみの一つになっている。	夕食の開始時間は16時である。毎日の生活サイクルを考えた時、入居者にとって適切な時間であるか、職員全体で検討してみる必要があると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日三食、主食、副菜、水分の摂取量をチェックし記録して一人ひとりの状況把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時しか受診実施。定期的に訪問歯科診療を受けて利用者の良好な口腔状態の維持に努めています。指導を受けて個々の状態に配慮した口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレにいける人もパットの汚れ、装着の確認を実施。尿意を訴えない方でも時間を見計らいトイレ誘導し排尿、排便を促している。排泄チェック表は一日及び月単位で記入し個々の状況把握をしています。	排泄チェック表を利用して、声掛け・誘導を行ってトイレでの排泄を促している。繰り返しの誘導が現状維持につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含んだ食事の提供を心がけています。水分量を把握し不足のないよう留意している。リビングに誘導し体力に見合った離床を実施。下剤に頼らないよう努めています。毎朝ラジオ体操を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の拒否があった場合、無理強いはしないようにしている。時間をずらしたり日を変えて対応しています。	入浴時間は健康面を考えて入居者ごとに違う対応をしている。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯を行い楽しんでもらう工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや健康状態を把握して疲れている方には臥床していただいている。眠剤に頼らないよう安眠環境をととのえている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ノート、投薬カレンダーを作り、飲み忘れや飲み間違いしないように工夫しています。服薬説明書を職員で共用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感が感じられる行事や誕生会を提供。テープで演歌を聞いたり、その他地域のお祭りなどに参加。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調を考慮して買い物や散歩など出かける機会を設けています。ドライブで海に行ったりお花見や紅葉見物に行っています。花見の時には回転寿司に行きました。気分転換が図られるように取り組んでいます。	天気の良い日はホーム近隣を散歩している。買い物は自分で購入したいという希望を叶えたり、少人数でのドライブにも出ている。花見の時期は近くの公園にお弁当を持って出かけるなど、季節を感じてもらうための支援をしている。家族と一緒に外出する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対する認識や希望を伝える能力に乏しいひとは職員が援助しています。家族、生活保護の方は行政と確認を取り合っており対応しています。買い物にいける人には同行し実施しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話は必ず本人に取り次いでいる。必要に応じサポートしています。手紙の代筆、代読も本人の状況に応じ対応しています。近況を写真を沿え家族に送付しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ季節の花を飾っています。展示物や壁飾りなどに季節感を取り入れています。空調はこまめに調整しています。	光が入るリビングにはソファが置いてあり、入居者が自由に寛げる。壁や廊下には入居者のた作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、いつでも自由に座っていただいています。他の入居者や職員とテレビを見たり会話をしたりして過ごしていただいています。天気の良いときは庭に椅子を用意し実施しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を極力置いていただいています。配置などは本人の状況に応じ事故のないよう配置しています。つまずきや転倒の原因にならないよう整理整頓を心がけています。	各居室には使い慣れた筆筒やテレビ等が持ち込まれている。自由に過ごせるよう、趣味の物を持ち込んでいる人もおり、どの居室もその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱が生じないよう個々の居室に表札をつけ、トイレにも表示しています。混乱した様子の方には声かけし誘導、援助をしています。		